



東北電友会会報



巨木 (和賀山塊のブナ)

第77号

平成27年8月発行

目次

NTT東日本より	1	会員だより	68
東北地方本部だより	6	会友コーナー	
各地区電友会だより	8	文芸	74
		随想	76

発行 電友会東北地方本部

電友会東北

検索

ごあいさつ

東日本電信電話株式会社 宮城事業部 秋田支店長

窪田 和樹

(NTT東日本一東北 取締役 秋田支店長)



東北電友会の皆様におかれましては、日頃よりNTT東日本の事業に対しまして、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

6月19日付けで、秋田支店長として着任しました。私にとって秋田県・東北地方とも初めての勤務地になりますので、とても新鮮に感じながら日々過ごしております。

さて、NTT東日本では昨年度大きく2つの変革を行いました。

1つは、今まで各県域で実施していた業務運営を6つのブロックに集約し、東北においても、秋田を含めた6県域が1つとなり、「NTT東日本一東北」の発足であります。

2つ目は、業種・業態を超えた様々な事業者の方と連携して光サービスを提供するための仕組みで今年2月より開始した「光コラボレーションモデル」の提供であります。

今年度はこの2つの変革を追い風に、「東北はひとつ」というキーワードで、東北一体となって東北の黒字化達成に向けて取り組んでいるところであります。

ここ秋田においても、平成26年度より地域住民を対象としたタブレット教室の開催や商店街様向けに地域Wi-Fi化を展開してきました。特に、男鹿市国定公園(鶴の崎)へ東北初となるソーラー自動販売機Wi-Fiを設置したことは、東北の防災対策を進めるきっかけになったと思います。

また、今年5月に秋田市で開催された東北六魂祭においても、商店街活性化施策として秋田市中心エリアのWi-Fiマップの作成や、東北3県へのお祭りパレードのライブ映像配信を展開するなど、東北各地域へ貢献できたものと思っております。

今後も地域への貢献はもとより、東北、さらにはNTT東日本の発展に向けて努力してまいりますので、諸先輩方にはこれまでと変わらぬご指導・ご鞭撻、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東北電友会会員皆様のご健康とご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

◎支部長メッセージ



秋田支部長

高橋 幸雄

秀麗無比なる 鳥海山よ

狂瀾吼え立つ 男鹿半島よ

神秘の十和田は 田沢と共に

世界に名を得し 誇りの湖水

山水皆これ 詩の国秋田

この歌は、昭和5年に「秋田県民歌」として制定されたが自治体が制定した県の歌としては全国最古である。全国に存在する県民歌や県歌はそのほとんどが戦後生まれだが、戦前にできた秋田県民歌は長野県の「信濃の国」、山形県の「最上川」とともに「日本三大県民歌」に数えられている。昭和34年秋田県庁新庁舎記念と2年後に控えた秋田国体開催に備えてつくられた「県民の歌」と秋田県では2つの「県の歌」があるが、「秋田県民歌」は80年の歳月を越えて今なお歌い継がれていることはそのこと自体に大きな価値があるのではないか。

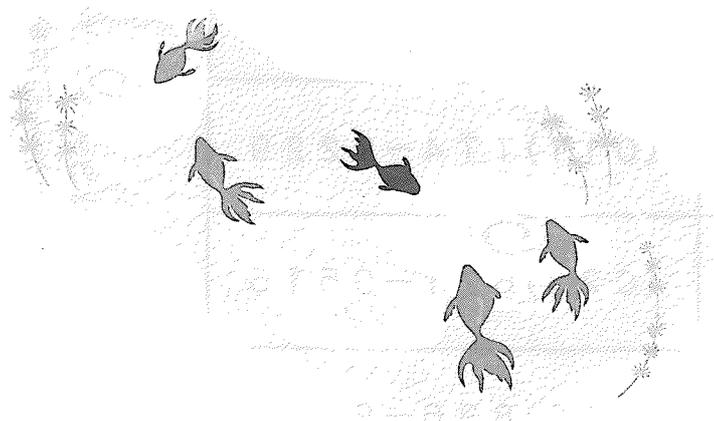
さて、電友会組織が出来てから半世紀、「仲間と共に」「明るく楽しく」をモットーに時代の変化と共にその活動も変化してきている。

昨年7月秋田支部主催で「キス釣り大会」を行った。誰でもが簡単にでき、秋田でしか出来ない「キス釣り」、県内はもとより東北の仲間との交流、現職との交流、会員拡大を願うための開催であった。今回の会報が発行される前に第2回目の大会が開催されることになる。多くの参加を得盛り上げて行きたいものである。

秋田県内では県北地区電友会（鹿角・大館・鷹巣・能代）県南地区電友会（湯沢・横手・大曲・角館）に千秋クラブ（秋田・土崎・五城目・男鹿・本荘）の3つのブロックに分かれての組織となっている。各組織が実施している余技作品展、忘年の集い、文化講演会などの事業に地区を越えて相互交流参加できるようにし、旧交を深めて行きたいと思っている。また、年に1度くらい県内交流事業を開催し現役の社員も参加できる内容の展開により、電友会活動への理解と、会員拡大への足掛かりとして行きたいと思っている。

今年2月電友会本部の幹部会に参加の機会があった。参加した各支部の活動状況の紹介があったが、ある支部の取り組みで各年度の退職者を全員電友会の会員にし、1年間は会費無料にするという取組をしているとの報告があった。県単位では全国最下位の会員数で

ある秋田支部として真似てみる施策であると思っている。そして東北地方本部の「心豊かな活動」の柱である「行くところがある、会人がいる、することがある」をモットーに会員にとって楽しい活動を継続して行きたいものである。



NTTから退職者の皆様へ

退職者(二〇年以上の勤続者)に対する
長寿お祝金の取扱いについて

NTTから次のとおり、お贈りしています。

- 喜寿のお祝い(七七才)三万円
- 米寿のお祝い(八八才)五万円
- 白寿のお祝い(九九才)十万円

注)年令は満年令でNTTが把握し贈呈しております。
不明の点があればご照会ください。

退職者(二〇年以上の勤続者)に対する
弔慰金の取扱いについて

NTTから次のとおり、香典をお贈りしています。

- ①本人 …… 三万円
- ②配偶者 …… 一万円

—NTT各支店総務担当電話番号—

宮城支店	(022)269-2020
福島支店	(024)531-7481
岩手支店	(019)625-4411
青森支店	(017)774-9229
山形支店	(023)621-9515
秋田支店	(018)836-8923

長寿お祝い金および弔慰金に関するお問い合わせなどは
左記の機関が窓口となっておりますので、遠慮なくご連絡
ください。

震災コーナー

◎「今、私は」

石巻電友会 山田 千秋

私は今多賀城市に住んでいます。震災の前までは石巻市南浜町に自宅がありました。北上川の河口に架かる日和大橋のすぐ近くで、家の前は広い緑地と運動場の雲雀野公園があり、その先は石巻湾の大海原です。悠久の大河北上川の流れと、白砂青松の雲雀海岸の海。私はこの川と、この海を愛し、この町に住むことを誇りに思い感謝して暮していました。現世の無常か運命のさだめか、地震に誘われた津波は、この川からもこの海からもわが町に押し寄せてきました。津波の引き去った後のわが家は、地面にコンクリートの基石の部分が残っているだけで、木造の建物も家の中の家具・家財の一切も、全てが流失して所在不明になっていました。ただ一つだけ、庭に祀っていた石に刻んだ氏神様の小さな祠が砂に埋もれているのを見つけたので、掘り起こして家に持ち帰りました。私も無事だった妻

も、家から何も持ち出すことが出来ず着の身着的ままでした。そのときに着いていた衣服は、生き永らえた自分の命と一緒に思いを感じるので、古くなっても捨てないで大事に仕舞っておきます。石巻市は南浜町を災害危機区域に指定しました。指定により建築基準法に基づきこの地に住宅を新築することが出来なくなりました。この代替え措置になるものとして個人の所有する土地について、石巻市が提示する価格に基づき個人から土地を買い取るようになりました。私はこの提示を受けて土地の売り渡しに同意し、石巻市と土地売買契約を締結して売却しました。平成25年6月に多賀城市に引っ越しました。震災の日から数えると、お世話になった人様のお宅に同居させていただいた1か月を含めて2年3か月の仮設住宅暮らしでした。当初は石巻で生活の再建をすることしか考えていなかったのですが、年月が過ぎて行くにつれて家庭の事情も変わってきましたし、自分の老後の生活のことも考えなければいけません。また思い出多い南浜町に戻ることも適わぬことになりましたので、石巻を離れることに決断しました。多賀城には、私の次女夫婦の家族の暮らす家があります。その近くに建つ中古マンションの3階の一室を購入しました。石巻で

被災した自宅の庭から持ち帰った氏神様の祠も、ベランダの一角に安置して祀っています。石巻を離れて暮らすことになりましたが、望郷の切ない思いか空しい人間の性か。テレビの天気予報の石巻地方を必ずみることで、故郷の縁の絆を確かめています。



◎3・11あの日、そして今

五ツ橋クラブ 若松 芳陽

M9・0岩手県から茨城県の沖の海底が、最大20m動き、揺れは約6分間、最大震度7を観測2011年3月11日午後2時46分18秒。

東日本大震災。あれから満4年が過ぎた。その後の被災地はどうなっているだろうかの思いから、津波で亡くなったボウリング仲間の親友夫妻の井戸浜地区へ、5月11日マイカー（自転車）のペダルを踏んだ。

櫛の歯が欠けたような沿岸部の松林そして

宅地跡は雑草に埋もれ、基礎のコンクリートが見えかくれしていた。その片隅に草花と缶

ジュースが供えられていたので手を合わせた。

振り返って、仙台市長町方面を見るとマン

ション等ビル群が遠くに見えた。津波の被災

を受けた井戸浜地区とそうでない所との違い。

途中で2才位の孫娘と手をつなぎ歩いてい

た70才ほどの女性に出会った。「ここに私の

家があったんです」と話しながら涙ぐんでい

た。私は正直、返すことばに詰まった。

東日本大震災による死者の数15,891

人、行方不明者2,579人。

被災4年、遅すぎる復興。

過日の衆院予算委員会での復興相の答弁は

極めて消極的であいまい。政府の復興政策は

風化の方向か？

これでは自力再建に向かって懸命に努力を

続けている被災者の気力を失わせるだけだ。

被災者が求めているのは、アベノミクス景

気のおこほれではない。復興に山積する難問

解決と責任ある支援ではないだろうか。

(被災地・井戸浜地区訪問3回目)

◎飯館村の避難者支援活動

福島地区電友会 丸山 秋一

「震災が発生して多くの支援団体がきましたが、今でも継続して来ているのはBHNさんだけです」と飯館村の職員から言われました。当会（認定NPO法人BHNテレコム支援協議会）は、飯館村の全村避難直後の2011年6月から行ってきた主な支援活動は

① 主要な避難先の仮設20ヶ所、新旧役場、小・中学校等の27拠点、29ヶ所を繋ぐ通信ネットワークの構築

② 避難民へのパソコン研修や携帯電話教室を開催（開催数は延べ1000回超）

③ 避難先自治会のホームページの作成支援（10自治会）

④ 健康管理システムを使ったID付歩数計を通じた「歩け歩け推進運動」の定着（継続利用者605名）

⑤ 認定NPO法人災害人道医療支援会の協力を得て医師と看護師派遣による健康相談会（累計92日／812名）

⑥ タイ式マッサージ師によるマッサージ会（累計90日／789名）

ということ、避難中の村民から絶大な信頼と期待を受けながら、現在も継続して活動を行っています。

こうした活動を東京にあるBHNの本部要員だけで行うことは無理な話で、現地での様々な調整とともに、医師・看護師、マッサージ師のサポートや歩数計の発行・データ整理、毎回の健康相談データ（カルテ）の整理などは円滑な活動のためには欠かせないものとなっており、福島地区電友会の会員4名が福島事務所の運営をサポートしています。

村民は、自力復興のひたむきな努力が続いています。長く続く避難生活のため心身の健康維持の問題は変わらず続いています。また最近では現避難先での生活再建を優先する若年層と、早期帰村に執着する高齢者層とに考え方も変わってきており、帰村に向けては新たな課題も山積みです。BHNとしては、村民の努力が報われるまで、可能な限り支援を続けてゆく所存です。



東北地方本部だより

東北地方本部事務局

◎東北地方評議員会の開催

平成27年5月14日、メトロポリタン仙台において「平成27年度電友会東北地方本部評議員会」が開催されました。ご来賓にNTT東日本取締役宮城事業部長・東北復興推進室長の柴田基靖様、総務部長小林誠様をお迎えし、電友会本部からは副会長の八木橋五郎様にご出席いただき、地方本部役員・評議員50名が出席しました。

小野寺会長から、来賓の皆様へ日頃の電友会活動へのご支援の御礼と今年度の取り組みについて3つの柱と一つの課題を軸に進めて行きたいとの挨拶がありました。

- ・ 会員の心豊かな生活と生き甲斐支援
 - ・ NTTグループへの積極的な貢献
 - ・ 震災の語り部を継続していく
 - ・ そして、会員拡大に努めていく
- また、八木橋副会長からは、
- ・ 電友会の活動は会員相互の交流によって生き甲斐を創造するにとどまらず、地域の活性化

化にも貢献している大事なものである。

- ・ その実態は支部、地区等の地域の皆さんの働きによって維持されている。

・ 今後とも継続して活動していくためにも一人でも多くの会員を募って、若い方々に繋げていきたい。大変だが頑張ってほしいとのご挨拶がありました。

続いて、柴田取締役宮城事業部長から、

- ・ 仙台で国際防災会議があり、NTTは通信体制を裏で支えた。トラブルも無く終了し、ホツとしている。
- ・ 東北復興推進室長として、東北地域の復興状況は大きな関心事。しかしながら、まだまだ道半ばと言わざるを得ない。

・ 東北各県では今年も様々なイベントが企画されている。今年の東北六魂祭は秋田が会場。これらの行事を通して東北が更に盛り上がり、て行く事を期待したい。

とのお話があり、最後に、日頃、スポーツサークル「東北マークス」に多大の支援をいただいていることに感謝申し上げたいとのご挨拶がありました。



ご来賓の取締役宮城事業部長 柴田基靖氏

その後、あさか電友会白田評議員を議長に選び議事に入りました。

- ・ 第一号議案 平成26年度事業報告
- ・ 第二号議案 平成26年度決算報告並びに会計監査報告

- ・ 第三号議案 平成27年度事業計画(案)
- ・ 第四号議案 平成27年度収支予算(案)
- ・ 第五号議案 役員の変更について

以上の議案が高石事務局長から提案され、全て原案通り可決承認されました。

役員改選では、地方副本部長に成田忠弘さん(青森支部)、地方理事に斉藤政夫さん(福島支部)、鈴木哲さん(山形支部)が選出されました。

また支部並びに地区の役員として長期に亘り活躍し退任された5名の方、及び地域でのボランティア活動に尽力されている2名の方に地方本部長から感謝状が贈呈されました。

- ・ 長期就任賞
山口嵩氏(福島支部)、館澤義雄氏(岩手支部)、江場和男氏(山形支部)、清野和義氏(村山クラブ)、白畑邦彦氏(酒田地区電友会)
- ・ ボランティア活動
福地俊一氏(大崎クラブ)、佐々木八洲光氏(青森地区電友会) (以上、組織順)

評議員会終了後、NTT東日本宮城事業部、福島、岩手、山形、秋田の支店長・幹部の皆様並びに賛助会社20社の幹部の皆様をお迎え

し懇親会を開催、盛況裡に終了しました。

27年度事業計画の骨子は次の通りです。

1. 会員の心豊かな生活と生き甲斐支援施策

① 会員にとって価値ある活動

・ 文化活動、サークル活動の活性化（サークル助成は会員単金方式で実施）

・ 働く機会の増大（生保試験監督者派遣等）

・ 環境保護活動

② 社会にとって価値ある活動

・ ボランティア活動の推進

・ 高齢会員へのサポート（振り込め詐欺被害防止の呼びかけ）

③ 組織活性化の取り組み

・ 新規会員の拡大（新規加入者へクオカード贈呈等促進策の展開）

・ タイムリーな情報共有（HPの活用等）

2. NNT・NNTグループ諸施策への協力

① 電友会諸行事でのNNT事業動向についての講演会等の実施

② NNTCSR活動へのチームNNTとしての参加

③ NNT事業への協力支援（PC教室等）

3. 防災意識の醸成

① 震災を風化させない活動

② 安全・安心の取り組み（本部と連携したデータベースの現行維持等）

◎電友会幹部会議模様について

27年2月20日NNT品川ツインズビルで全

地方本部長、事務局長及び各地方から1名の

支部長が集まり開催されました。冒頭、鈴木

会長から挨拶（要旨）がありました。

・ 各支部長には電友会活動の中核を担って

らっており感謝している。

・ 全国で展開されている施策をまとめ例示し

た。是非参考にしてもらいたい。

・ 今後に向けて何をやるか、もがきながら考

えている。支部等地方の意見も大いに聞かせ

てほしい。

・ NNTが展開する「光コラボ」をよく理解

し協力していきたい。

主な議事事項は次のとおり

・ 支部活動の取り組み・課題等について

各電友会での活動をまとめた中で「推奨事

例」「方向性確認事項」「課題」に分類し、こ

れらを共有しつつ活動に生かす。

・ 今後の電友会活動における各組織の役割

課題について、本部、地方、支部等の役割

を議論した。

・ ボランティア表彰のあり方検討について

従来の表彰分野に加え、更に電友会活動の

活発化に繋がる分野の表彰についても検討し

ていく。

・ 各支部からの活動紹介等

◎支部長・事務局長会議の開催

27年3月3日NNT五橋ビル会議室におい

て開催され、次の事項が審議、決定されました。

① 平成27年度事業計画（案）について

② 電友会幹部会議模様について

③ サークル助成金の使用状況等について

◎第一回地方理事会の開催について

27年4月22日NNT五橋ビル会議室におい

て開催され、地方評議員会に付議される議案

について審議されました。

◎叙勲のご紹介

謹んでお祝い申し上げますと共に、益々の

ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

高齢者叙勲

（叙位・叙勲）（支部名）（ご氏名）

瑞宝双光章 秋田 加賀谷孝三様

宮城 長谷川 昭様

宮城 佐藤 祐一様

宮城 鈴木 正祐様

宮城 佐藤 隆様

宮城 若生 重次様

秋田 松山 省吾様

池野 照雄様

宮城 新妻禮次郎様

（平成27年2月～27年5月まで）